

# 平成30年度 姉妹校等留学プログラム

## 海外友好校・姉妹校との交換留学プログラム（メキシコ）

### (1) 学校・団体名/種類（派遣高校生的人数）

横浜翠陵中学・高等学校/海外研修（2人）

### (2) 渡航先

国/都市：メキシコ/メキシコシティー

外国の高校：日本メキシコ学院

### (3) 期間

平成31年3月15日～平成31年3月30日（16日間）

### (4) プログラムの趣旨・目的

①海外友好校・姉妹校との人的交流（派遣・受入ともに年間各1回）を通じて、その関係をより深いものにする。

海外姉妹校：日本メキシコ学院（メキシコ・メキシコシティー 1993年提携）

②生徒に交換留学の派遣と受入の機会を与え、異文化理解とともにグローバルな視点を持つためのきっかけづくりとする。

### (5) 活動内容

成田空港から出国した。

⇒ メキシコシティー空港へ到着した

⇒ 現地国際交流担当に出迎えてもらった

⇒ ホストファミリーと対面した

⇒ 学校で国際交流担当者が作成してくれた時間割に従って日本メキシコ学院の授業に参加した（主にホストシスターの授業）

⇒ 授業時間をもらって、日本文化・学校生活・横浜市などの地域社会についてのプレゼンを英語で実施した

⇒ 週末及び休日期間中にはホストファミリーに近辺の観光地などに連れて行ってもらった

⇒ メキシコシティー空港から出国した

⇒ 成田空港へ到着した

⇒ 国際交流委員会の教員により出迎えた

## (6)実績・成果

### ○派遣高校生 NMさん

私は春休みの二週間で、姉妹校である日本メキシコ学院に研修に行ってきました。二週間という短い期間ながらも数々の貴重な経験ができ、とても充実したものとなりました。今回の滞在の最大の目的であったメキシコでの学校生活と文化交流、ホームステイで体験したことについて以下でまとめました。

学校生活では、授業の科目も多種多様で違いがみられましたが、その仕組みにも慣れていないものが多くあり、新鮮に感じました。例えば、時間割にも大きな差がありました。日本メキシコ学院では、高等部の授業は7時から一限目が始まり、最後の授業が3時に終わり、一日計8コマの授業をうけます。休み時間は15分休憩が二度挟まれるのみで、基本次の授業を立て続けで受けるため、長時間持続する集中力が必要とされました。語学の授業以外は全てスペイン語でわからないことだらけだったけれども、クラスの友達が英語で授業内容を丁寧に説明してくれたため、楽しく参加することができました。二週間難なく学校生活を送ることができたのは、クラスメイトの気遣いのおかげだと感じました。また、登校は親の送迎や自家用車で登校が当たり前で、学校の敷地内にロータリーがあったり、入り口では軽い身体検査も行われていました。高いセキュリティ対策にも小学生さえ一人で通学するような日本の学校とは大きく差を感じました。

日本メキシコ学院は、その名の通り、日本人向けの日本コースと、日本に強い関心をもつスペイン語を第一言語とする生徒向けのメキシココースがあり、私はメキシココースのプログラムに参加していました。このプログラムでは、日本語や日本文化の授業が熱心に行われているのはもちろん、月に一度開かれる朝会では、日本国歌や日本民謡の歌唱、校歌も日本語で歌っていたり、私が参加した会がちょうど3月だったということもあり、東日本大震災の記憶を振り返るというテーマのもとそれに沿った発表も行うなど、生徒の日本へのリスペクトを多々感じることができました。

姉妹校との友好的な関係を維持し、文化交流によりさらに密なものを目指すという交換留学の使命のもと、積極的に日本メキシコ学院の生徒や先生と関わる機会をもつことができました。文化交流の一環として、現地の高校生の日本文化の授業と、同じく高校生の日本語の授業で、それぞれ英語と日本語で学校と横浜紹介をする時間を設けてもらいました。質疑応答を交えながら、自分の通う学校やそれが位置する横浜の特徴や魅力を深く知ってもらうことができました。また、日本語のクラスの授業を手伝ったり、英語によるディスカッションで盛んに意見交換を行い、お互いの文化について多角的なアプローチにより日墨両文化についてより理解を深めることができました。特に、メキシコと日本、リセオと翠陵で見られる学校生活、教育システムの違いについての話しは大いに盛り上がりました。例えば、先生の話している途中でも構わず発言、質問をするリセオの生徒からすると、日本では授業は先生の話静静地に聞くことが礼儀だという文化がまだ残っていて、それを疑問に感じるようで、そのようなメキシコ人の見解を知れたことは面白かったです。

今回の交換留学では、留学先の日本メキシコ学院に通う生徒のご家庭に滞在させてもらうホームステイの形態で訪れました。ホームステイは初めてでしたが、受け入れ先の家族が温かく迎えてくれたため、不安や問題もなく快適な生活を送ることができました。私のホストシスターは日本メキシコ学院の小学部で学ぶ11歳の女の子でしたが、英語が堪能でスムーズな意思疎通もでき、彼女をはじめとし家族全員と密に関わり、帰国後も連絡を取り合うような良好な関係を築くことができました。学校だけではなく、家でも盛んな文化交流に努め、ホストシスターの日本語の宿題を手伝ってあげる代わりにスペイン語のレクチャーをしてもらったり、団子やお好み焼き、うどんなど日本料理を振る舞ったりしました。ホストファザーが日本企業に勤めていたり、日本に旅行に来たこともある程のかなりの日本通の家族だったため、日本的な習慣にも元より理解があり、お互いの文化に自然に馴染むこ

とができて嬉しかったです。

今回のメキシコ交換留学のプログラムを通して、今回のモチベーションに繋がる様々な学びや発見を獲得しました。まず第一に、何事も耳で聞いて理解していたつもりでも自分の目で確かめるまでは理解したとは言えないということを再認識しました。例えば、多様な価値観の許容と共存が重要であるという国際社会の大前提に当たり前のようになんまりしていましたが、ほぼ単民族国家である日本にいてだけで何を根拠に頷いていたのだらうと思うようになりました。複雑に多民族の血が交じり、多様な文化が共立するメキシコの開けた空気を体感し、初めてそれが成り立つことの素晴らしさを知ることができました。現地に足を踏み入れてようやく実感できることは、必ずしも良いことばかりではないこともわかりました。実際に、日本でももちろん経済格差は問題となっていますが、目に見える貧富の差というのは少なく、メキシコに行って、極端な貧富の差を視覚で体感して、ショックを受けた場面もありました。このように、今まで自分が聞いたり読んだりしただけの情報にいかにか頼っていたかを痛感し、世界に目を向け、出て行くことの意義を改めて考え直しました。

加えて、今回の研修は改めて日本に目を向けるきっかけになりました。今までは世界に視野を広げることが第一優先だと考えていたのですが、それ以前に自分の母国への理解が乏しくては意味をなさないことに遅ればせながら気づきました。日本メキシコ学院で出会った人々は、誰もが明確な目的を持ちながら日本文化を学んでいて、その熱意と知識量に圧倒され、自分のあまりの無知さに羞恥を抱きました。さらに彼らは、メキシコのことについて尋ねてみると、その背景知識から彼らの個人的見解まで流暢に教えてくれて、理解と尊敬に富んだ彼らの母国に対する態度に、気後れするほど感銘を受けました。その感動を一時の感動で終わらせず、今後の学びのモチベーションにしていきたいです。国際的な人間になりたい、その一歩として未知の世界のメキシコに飛び込んでみたいという漠然な思いでメキシコ研修への参加を決めましたが、自分の生まれ育った土地である日本もまだまだ未知であることを実感しました。その結果、世界の一部として多様な目線で見日本を捉え直して、その魅力を発信できるようになりたいという目的ができました。この研修を通して深まった両国への興味をさらに掘り下げて、またいつの日かメキシコに行きたいと思いました。



## ○派遣高校生 MT さん

メキシコで過ごした約二週間は、私の十七年間の人生において、最も色の濃い、かけがえのない思い出となりました。

私が一番心に残っていることは、日本メキシコ学院の生徒の学力のレベルの高さです。一日九コマというハードな時間割にも関わらず、一時間目から九時間目まで授業を楽しんでいる様子に、とても感心しました。生徒は普段先生のことを、スペイン語で先生を意味する「profesor」または「profesora」という言葉を省略して「プロフェ！」と呼んでいます。しかし、日本語の授業が始まった瞬間に、日本語で「先生！」と呼び、課題ができた時には日本語で「できました！」と言っているところを見て、勉強に対する意識の違い・意識の高さを感じました。

また、スペイン語しか話せない先生と会話するときには、先生の言っていることを英語に直して教えてくれたり、私のホストマザーは英語を全く話せなかったため、シスターはお母さんと話すときはスペイン語で、でも私に話しかけるときは英語で、と常に二か国語を使い分けてくれていて、学力の高さにとても驚きました。

横浜については英語で発表し、地理的なことや様々な観光地、簡単な歴史について紹介しました。私が参加していた中学一年生のクラスでは、まだ横浜のことを知っている人は少なかったですが、上級クラスには知っている人も多かったそうです。発表時にはみんなとても静かに聞いてくれて、「東京からはどのくらい離れているの？」などと質問してくれる子もいました。私のシスターのお兄ちゃんは、LINE のアイコンまでも横浜みなどみらいの風景にしてくれて、みんな興味を持ってくれた様でした。文化の違いは想像以上にあって、私も戸惑うことはたくさんありました。私たちの文化も、向こうでは理解してもらえていない部分はもちろんあったと思います。でも、約 11 万kmも離れている自分の暮らす街を知り、少しでも好きになってくれたことがとても嬉しかったです。

英語でコミュニケーションは取れるものの、やはり日本語のようにはいかないので、生徒同士がスペイン語で話していて会話に上手く入り込めないときや、言いたいことが言えない時にとってももどかしく感じました。もっと英語が話せたら楽しいのに、みんなと仲良くなれるのに、と悔しく思いました。普段学校では色々な文法や構文を学んでいますが、会話となるととっさには出てこないことばかりで、もっと英語を学びたい、自分の言葉で英語が話せるようになりたい、と強く思いました。

日本メキシコ学院の授業では、日本と違って授業中に立ち歩いたり、お菓子を食ったり、自由な様子が目立ちました。しかし、先生が一つ質問を投げかけると、日本のように先生が名指しで生徒を当てなくても、自発的に誰かが答えます。静かな授業ではなく、良い意味でうるさくて騒がしい授業というのは初体験でした。

私が通う高校でも、多くの留学生を受け入れており、常に学校に留学生がいます。しかし、無視されたらどうしようとか、私の発音では伝わらなかつたらどうしようとか、そういうことばかり考えて、廊下であっても声をかけたりすることが出来ず、消極的な態度ばかりとってしまっていました。でも、今回自分が留学生という立場に立ってみて、初めて留学生側の気持ちを理解することができました。話しかけてくれなくても、すれ違う時に笑いかけてくれたり、手を振ってくれたり、それだけで嬉しいことや、留学生の母国語で話そうとしてくれている子に、発音が変だなんて思わないことです。言葉では上手く伝えられなくても、ジェスチャーを使ったり、絵をかいたり、コミュニケーションをとる手段はたくさんあるので、今高校に来てくれている留学生には、今度こそ絶対に挨拶をしたいと思いました。

私には、もう一つ強く印象に残っていることがあります。それは、「コヨアカン」という、メキシコの伝統品を買ったり、郷土料理を楽しめる場所に行ったりしたことです。普段通っていた日本メキシコ学院は、セキュリティ等がしっかりしており、また富裕層の家庭出身の生徒しかいないので、

危険なことなど特になく、とても安全に毎日の生活を送ることができていました。しかし、コヨアカンは今までメキシコで見ていた景色とはまるで違って、子どもを抱きながら何かを売っている女性がいたり、赤信号になると窓を叩いて商品を買ってもらおうとしてくる人がいたり、道路でお手玉のようなものを披露してお金を稼いでいる子どもたちがいたり、と貧困層の人々の姿が目立ちました。日本では、日常生活で貧富の差を感じることはないので、社会の授業で習った社会問題を初めて肌で感じたような気がしました。これは自分が解決できる問題ではないけれど、まずはちゃんと知るところから始めたいと思いました。

また、私は滞在二日目で孤児院にも行き、様々な衣類や遊び道具、食べ物を子どもたちに配りました。孤児院という存在は知っていたものの、どういう場所なのかも良く分かっていなかったため、これもまた私にとって貴重な経験となりました。

私は海外に行くのが生まれて初めてだったので、初めての異文化との交流は衝撃的なことばかりでした。家の中で靴を脱がないことから始まり、交通面、宗教面、体調管理法等、違いを挙げればきりありませんが、私が一番苦労したのは食事面です。標高が高いため疲れやすく、頭痛も頻繁にありました。ほんの少し階段を上るだけでも息が切れてしまう程で、体調管理には特に注意が必要でした。

日本にいるときには想像もできなかったような景色がメキシコにはあって、少し考えさせられるような場面にもたくさん遭遇しました。日本に生まれて良かったと思うと同時に、自分が世界や社会に対していかに無知で無関心だったかを痛感しました。たった二週間でしたが、この二週間の経験を思い出として終わらせないで、自分の人生の経験値として役立たせたいです。そして、周りの人にも伝えていきたいです。大変なことも多かったけれど、それ以上に学ぶことが多く、自分にとってとても有意義な時間を過ごすことが出来ました。今回、この交換留学プロジェクトに参加できたことを嬉しく、誇りに思います。

